屋根はしごの類型化及び分布に関する基礎調査

ー長岡市中心市街地のケーススタ ディー

建築・環境デザイン学科 渡邉研究室 182054 由沢莉沙



屋根はしごとは

積雪地域で雪下ろしのために上層階へ移動する目的で設置されており、 非積雪地域の人からは不思議に見えるはしごのこと。

研究の背景

私は長岡で生活し始めてから、この「 屋根はしご」の存在を不思議だと感じ 興味を持った。「屋根はしご」はそれ ぞれ設置された建物により差異があり 分類別にまとめられそうだと感じたが 先行研究を見つけることができなかっ たため、2022年度時点の設置状況を 調査しまとめることで屋根はしごに関 する基礎的な研究になると考え本研究 を始めた。

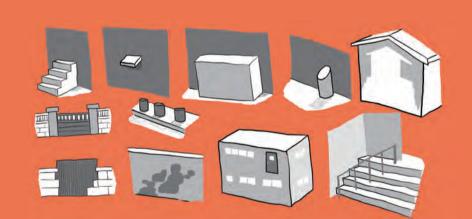
研究の目的

「屋根はしご」の設置実態の基礎的デ ータを記録し、整理することを目的と する。また、何らかの傾向がある場合 にはその傾向についても考察をする。

先行研究

トマソン観測とは 街中の建造物や道路に付着する、 無用の長物でありながら美しく保 存された不可解な凹凸を発見し、 記録、報告すること (赤瀬川原平/藤森照信/南伸坊.『路上観察学入門』 .筑摩書房.1986年,P195-228)

このトマソン観測は路上観察学の 一部に分類されており、本研究は その延長上に位置すると考える。



研究方法

現地調査

はしごについて先端形状、素材、足 がかり、長さの4項目、 設置されている建物について、屋根 タイプ、素材、住宅形式、高床、空 き家であるかどうかの5項目、 計9項目について調べ写真を撮る。



対象敷地 長岡市中島1~7丁目 水道町1~5丁目 昭和1,2丁目 の地域



調査結果

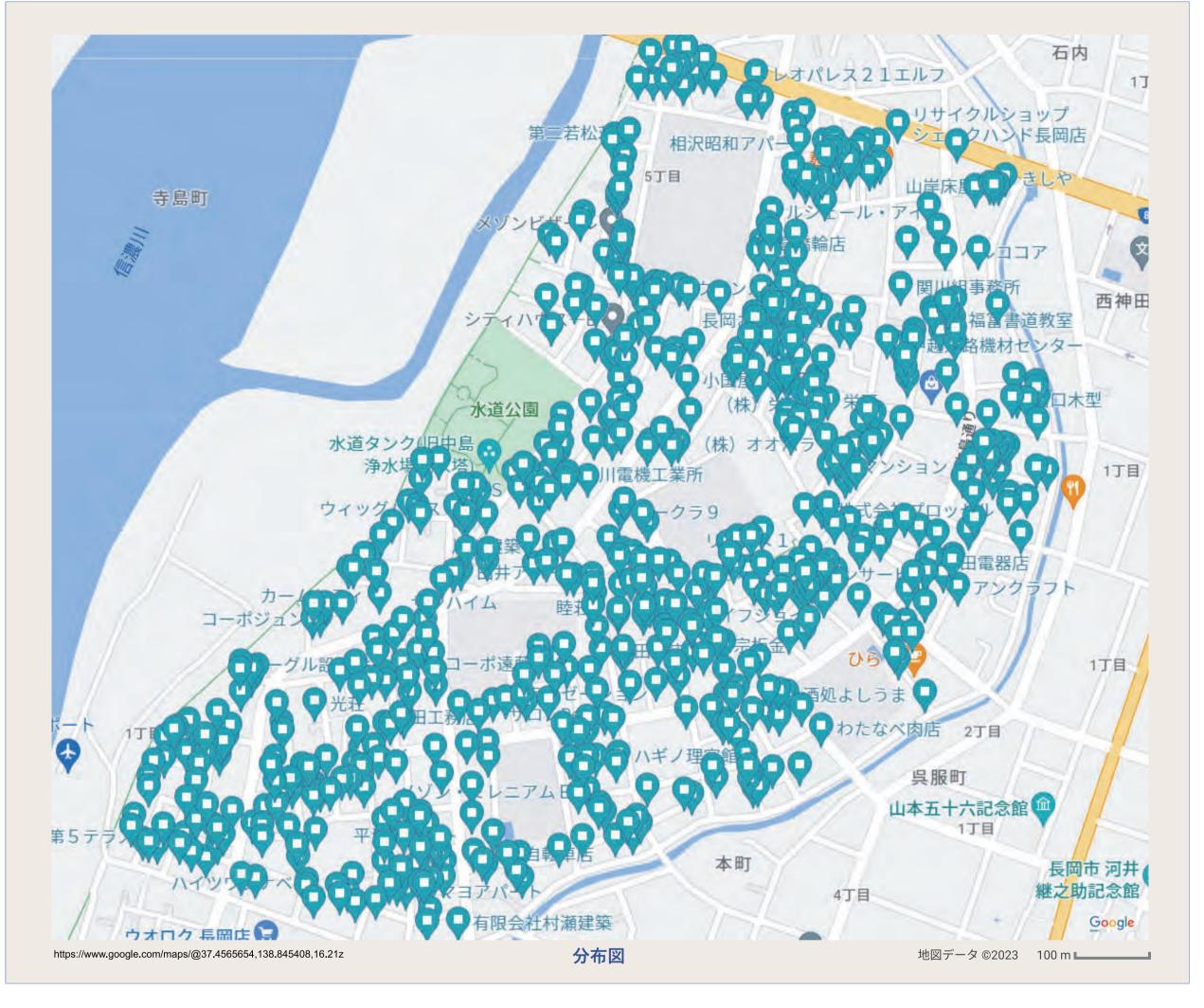
全682件(うち屋根はしごが複数個見られた建物13戸)

一 中島1丁目	62	中島6丁目	62	水道町4丁目	31
2丁目	49	7丁目	31	5丁目	36
3丁目	48	水道町1丁目	30	昭和1丁目	60
4丁目	80	2丁目	26	2丁目	44
5 丁目	55	3丁目	53		



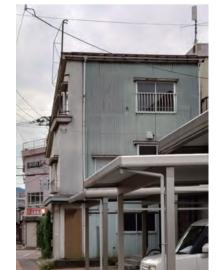






























対象地域における各項目ごとの割合 その他 5.9% 鍵 3.4% 地上から 12.3% 6.3% <mark>足場</mark> 1.6% 横斜め 36.3% 11.4% <u>ベランダ</u> 9.3% 曲がり 48.5% <u>平</u> 4.6% 真っ直ぐ 27.6% <u>前後斜め</u> 31.7% 先端形状 素材 足がかり その他 2.4% 招きづくり RC 8.1% 1.8% 2F 3.6% 差し掛け 2.0% 寄棟 陸屋根 切妻 68.5% 木造 88.3% 91.9% 建物素材 長さ 屋根タイプ アパート 有 16.0% 0.7% 4.4% 戸建て 95.6% 無 99.3%

結論

住宅形式

本研究では「屋根はしご」の設置実態の基礎的データを記録し整理するために、現地調査を行い、「屋根はしご」の形状などと「屋根はしご」が設置されている家屋の状態などから分類分けを行った。その結果、「屋根はしご」は素材が銅である場合には築年数が古く木造建築であり、空き家である家屋が増えてくるが、素材がアルミの場合は新築の建造物やRCの建物で高床式になっている家屋が多いことが明らかになった。また、築年数が新しい家屋ほど屋根の向きが隣接した家屋に向かわない、道路などに向かう傾向が見られたことから、雪下ろしによる近隣住民とのトラブルを避けるために家屋の屋根の向きに気を使い新しい住宅を建てているということが推測できる。

高床

空き家

トマソン的屋根はしご

全686件の中でも特に形状が珍しいものや不思議だと感じた屋根はしごを3件選んだ。

水道町2丁目

屋根はしごの形状が他のものとは 違い、一度下がってから屋根に上 るものになっている。 窓に直接付いているという点も珍 しい屋根はしごになっている。



中島4丁目

基本的に屋根はしごは接している壁に垂直に立てかけられている形になっているが、この屋根はしごは壁と平行になるように設置されている。





昭和2丁目

屋根はしごが複数ある建物は何例か存在したが、同一壁面に屋根はしごが複数あるものはこの 根はしごが複数あるものはこの 建物のみであった。

空き家で取り壊す予定であると のこと。

